



“Next stage!”



～高校総体激闘の結果!～

高校総体の結果が続々届いている。空手女子総合優勝をはじめ、女子ハンドボール悲願の優勝、その他女子サッカーの3位等目覚ましい活躍である。ここでは主な団体競技の結果について紹介するが、個人の結果は「学校だより」により周知する。

【空手道】

- | | |
|-----------|-----------|
| 女子団体総合 優勝 | 男子団体総合 3位 |
| 女子団体組手 優勝 | 男子団体組手 3位 |
| 女子団体形 優勝 | 男子団体形 3位 |



【ハンドボール】

- 女子ハンドボール 優勝

【ボクシング】

- ボクシング団体 3位



【サッカー】

- 女子サッカー 3位

【卓球】

- 男子卓球団体 3位



選手のみなさん本当によく頑張ってくれた。特に空手道部の全国大会32年連続出場は全国でもまれに見る快挙である。このプレッシャーの中、力を発揮することは並大抵のことではない。本当に“あっぱれ!”である。

また、女子ハンドボールは粘りに粘っての勝利!あきらめない心に感動しました。まさに魂の闘いを見せてくれました。

その他、入賞を逃したものの他競技で頑張ったみなさん本当にお疲れ様でした。特に3年生のみなさんにエールを送りたい。この部活動を通して培った経験や力は、必ずこれからの人生においてみなさんの支えになることを保証します。 校長

～早稲田実業高校～

沖縄で招待野球があったのは知っていますか?

清宮君で注目を集めている早稲田実業が来沖した。聞いたところによると、早実の野球部はかなり勉強もできるということだ。遠征には必ず参考書等を持参し、練習が終わると勉強しているようだ。実際に清宮君も英語がペラペラで、優秀らしいぞ。

大学入試も一般試験で入れる力をつけるのが当たり前ようだ。

さて、浦高のみなさんはどうだろうか?“部活が忙しい”“疲れて出来ない”何て事を言っていないか。それじゃあ早実の生徒達は「部活が忙しくないのか?」「疲れてないのか?」という事になる。

何が言いたいのかというと“切り替え”を上手にできるか出来ないかの話である。部活を一生懸命やる。部活が終われば勉強する。早実のような一流の野球部であっても勉強も頑張る学校が存在する。その差って何?先程の言い訳は早実で通用するのだろうか?



*** 校長雑感 ***

私は県高体連空手道競技専門部長という肩書きを持っている。みなさんご承知の通り本校の空手道部は大会で活躍する。しかし、大会の会場にいながら浦添高校の応援はあからさまにできない。優勝しても喜んだり、はしゃいだりしてはならない。浦添高校の選手に声援を送ったり、負けて悔し涙を流していても声を掛けることすらできない。専門部長は辛いのだ。(涙)

～.～.～ 時の言葉 ～.～.～

いつかできることは
すべて今日から始めたほうがいい



ミシェル・ド・モンテーニュ(哲学者)

どこかで聞いたような感じがする言葉ですね。
「いつでもできる」と思って行動を起こさないとチャンスのがしたり、思いもよらないことが起ってできない環境になったりします。 “いつやるの?今でしょ!” 校長

～闘う相手の分析～

部活動をしている生徒のみなさんは、あらかじめ対戦相手が決まっていれば、その分析を必ずするだろう。相手の得意な攻撃や弱点などを分析することにより、作戦を立て、自分の有利な方向へ持ち込むようにするのが賢い戦い方だ。逆に言うと闘う相手を知らずして闘うことは、賢い闘い方ではないということだ。

受験勉強も同じです。まず、自分が闘う(受験する)相手(大学等)を分析する。どんな大学で、過去にどんな問題を出してきたか。その攻略方法を訓練する。難敵であればあるほど、分析をすることは勝利への近道になるぞ。